

平成27年度 第1回吉田町総合教育会議 会議録

- 1 開催期日 平成27年5月20日(水) 午前9時
- 2 場 所 吉田町役場 2階 町民ホール
- 3 出席者 田村典彦町長、塚本成男教育委員長
浅井啓言教育長、久保田さな江教育委員、藁科浩子教育委員
事務局 水野辰明教育委員会事務局長、松永満教育委員会事務局長補佐、
鈴木久社会教育統括、岸端大輔主査
- 4 議事内容

1 開会

○事務局

定刻となりましたので、開会に先立ちまして、相互にあいさつを交わしますのでご起立願います。礼、ご着席ください。ただいまから平成27年度第1回吉田町総合教育会議を開会いたします。

(1) 町長あいさつ

○事務局

開会にあたりまして、町長からごあいさつ申し上げます。

○田村町長

座ったままで失礼します。平成27年度第1回吉田町総合教育会議の開催にあたり、一言御挨拶申し上げます。地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正が行われ、本年4月1日から施行されました。この改正の中で、総合教育会議を新たに設置することが定められ、当町におきまして、本日第1回目の吉田町総合教育会議を開催することといたしました。

この会議は、首長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、意見交換を行うことによりまして、地域の教育の課題やあるべき姿を共有し、それぞれの役割分担の下、連携をして教育行政の推進を図ることを目的としております。総合教育会議での協議をより地域の実情を踏まえたものとするために、学校・地域などで教育に従事している方や、精通している方からなる吉田町教育推進委員会を設置し、そのご意見をお聞きしながら、総合教育会議の議論を進めてまいりたいと考えております。

また、この会議の協議事項といたしまして、法律の定めにより教育大綱策定に関する

協議を行うことが定められております。この教育大綱は、地域の実情に応じ、当町の教育・学術及び文化の振興に関する総合的な施策によりまして、その目標や施策の根本となる方針を定める大変重要なものでありまして、総合教育会議の中で議論を尽くして策定してまいりたいと考えます。

本日開催される総合教育会議が、教育委員の皆様と教育施策の方向性を共有し、吉田町の教育を大きく前に進める、そのきっかけとなることを期待いたしまして、私のあいさつとさせていただきます。

○事務局

ありがとうございました。

(2) 教育委員長あいさつ

○事務局

次に、教育委員長から御挨拶をいただきます。

○塚本委員長

皆さんおはようございます。着座にて失礼いたします。教育委員会を代表しまして、一言御挨拶を申し上げます。今回総合教育会議が開催されることになりました。新教育委員会制度と言われているのですが、その中での一つ総合教育会議が開催されるということなのですが、以前この会議が開催される前に指摘されていたことはですね、教育委員会の形骸化であったり、諸課題への迅速な対応が出来ていないといった問題提起から新教育委員会制度が施行されることになっております。

今回、この総合教育会議を通じて、首長と十分な情報交換を経て、連携を強化することが求められています。私たち委員会は、以前指摘されていたことをですね、委員会なりに十分に改めてその制度改定の意義を理解して、今後充実した教育環境の整備に努めていかなければならないと考えております。本日の会議で、町長と吉田町の課題につきまして十分意見共有をして、連携して今後教育にあたっていくことを期待すると共に、この会議が実り多い会議になることを期待いたしまして、御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。

2 議事

(1) 総合教育会議の概要について

○事務局

それでは議事に入ります。議事の進行を町長をお願いいたします。

○田村町長

それでは、次第によりまして、本日の議事を進行いたします。

本日は初めての総合教育会議でございます。総合教育会議についての認識を共有することが大切でありますので、はじめに(1)としまして総合教育会議の概要について議題としております。事務局から、総合教育会議の概要について資料の説明をよろしく願います。

○事務局

事務局でございます。それでは総合教育会議の概要についてご説明申し上げます。お手元の3ページの資料と参考資料1を御覧いただきたいと思っております。

既に御承知の通り、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正によりまして、すべての地方公共団体に総合教育会議を設置することになりました。そこで、総合教育会議について今一度出席者全員で確認をしていきたいと思っております。

まず、総合教育会議の目的でございます。資料1の目的にありますとおり、総合教育会議は、教育に関する予算の編成や条例提案など重要な権限を有している地方公共団体の長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、自由な意見交換を行うことによって地域の教育の課題やあるべき姿を共有し、教育行政の推進を図ることが目的でございます。参考となりますが、首長に教育行政の大綱の策定が義務付けられておりますので、この総合教育会議において協議・調整を尽くしていただき合意したことにつきましては、首長及び教育委員会は互いに尊重して、それぞれの事務を管理執行していくこととなります。

次に、2の構成でございます。法第1条の4第2項で規定していますように、総合教育会議は、地方公共団体の長と教育委員会で構成されます。教育委員会からは、教育長及びすべての委員が出席することが基本でございますが、緊急の場合等で、首長と教育長のみで会議を開くことも出来ます。ただし、教育委員会から教育長のみが出席する場合には、事前に対応の方向性について教育委員会の意思決定がされている場合や、教育長に一任している場合には、教育長はその範囲内で調整や決定を行うことが可能とされています。なお、総合教育会議の構成員にはなれませんが、協議すべき事項として関係者または学識経験者からの意見を聞くことが出来ます。

次に、会議の性質でございます。総合教育会議は、対等な執行機関同士の協議・調整の場であり、地方自治法上の附属機関にはあたりません。協議し、調整する対象とすべきかどうかは、予算措置など政策判断を必要とするか否かで判断すべきとされています。たびたび協議・調整というような言葉が使用されますが、調整とは、教育委員会の権限に属する事務について、地方公共団体の長の権限に属する事務との調和を図ることを意味します。協議とは、自由な意見交換として幅広く行われることを意味しておりますので、この点については、よく理解をしていただくことが肝要かと思われれます。なお、会議の議題として教科書採択、教職員人事等、特に政治的中立性の要請が高い事項は調整の対象にはならないものの、方針や基準について協議することは出来るとされています。

最後に、4のその他でございます。総合教育会議は、地方公共団体の長が招集するものでございますが、教育委員会側から教職員の定数確保であったり、就学援助の充実で

あたり、政策の実現に予算の権限を有する長と調整が特に必要があると認める時は、教育委員会側からも積極的に総合教育会議の招集を求めることが出来ます。なお、参考資料1の抜粋を御覧いただきますように、法第1条の4第9項で規定していますように、会議の運営に関し必要な事項については、総合教育会議での合意をもって定めることとしております。以上が、総合教育会議の概要についてでございます。

○田村町長

ありがとうございました。ただいま事務局から、総合教育会議の説明がございました。委員の皆様におかれましては質疑であるとか意見等ございましたらよろしくお願ひします。よろしいでしょうか。

(2) 吉田町総合教育会議の運営方法等について

○田村町長

無いようですので、続きまして(2)の吉田町総合教育会議の運営方法等についての事務局の説明をお願いいたします。

○事務局

事務局でございます。それでは、吉田町総合教育会議の運営方法等についてご説明申し上げます。お手元の資料5ページを御覧いただきたいと思います。

一つ目の1の協議事項でございますが、法に定められているように、(1) 大綱の策定に関する協議、(2) 教育を行うための諸条件の整備、その他の地域の実情に応じた教育・学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずるべき施策、(3) 児童・生徒等の生命及び身体に現に被害が生じ、またはまさに被害が生ずる恐れがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置、以上3項目でございます。

次に、今後の進め方についてでございますが、法に規定のない会議の運営部分を吉田町総合教育会議運営要綱として定めることとします。この資料には、運営要綱抜粋を記載いたしましたが、要綱に定める主な項目としまして、(1) 町長は会議を招集し、その座長となります。(2) 会議は原則として公開します。ただいま原則と申し上げましたが、法では、個人の秘密を保つため必要がある時などは非公開とすることが定められてございます。この規定に従いまして、運営要綱におきましても非公開とする場合の手続を定めることといたします。なお、総合教育会議の議事録につきましては、法律上、その公表は単に努力義務と位置付けられておりますが、当町におきましては、会議を非公開とする場合を除き議事録は公開することとします。このため、町の運営要綱では、議事録を町民の皆さんの閲覧に供するとともに、インターネット上でも公開すると規定してまいります。続きまして(3)ですが、会議の事務局を教育委員会事務局教育総務部門に置きます。

次に、3の総合教育会議に関連する取り組みをご説明申し上げます。総合教育会議における協議をより地域の実情に応じたものとするため、当町の取り組みは、現に学校・

地域等で教育に従事している方や精通している方をメンバーとする吉田町教育推進委員会を町長が設置します。静岡県の有識者会議に類似してございますが、県と異なる点は、メンバーにより教育現場に近い方からの意見を反映させようとする点でございます。推進委員会では、総合教育会議で協議し調整する議題等について、町長があらかじめ意見をいただくこととしており、この意見を踏まえて町長が総合教育会議で提案し、協議していく形を取りたいと考えています。

次に6ページは、吉田町教育推進委員会設置要綱案を掲載しておりますので、併せてご協議願いたいと思います。

また、お手元の資料7ページですが、これが先ほど要旨を説明いたしました吉田町総合教育会議運営要綱案でございます。このうち、第3条第3項の規定を御覧いただきますと、傍聴の手續、傍聴人の守るべき事項、その他傍聴に関して必要な事項は、別に定めると規定しております。その別に定めるものが次の8ページでございます吉田町総合教育会議傍聴要綱案でございます。総合教育会議は原則公開でございますので、運営要綱に付随して、傍聴者の皆さんに守っていただくルールを設けさせていただきました。

以上が、吉田町総合教育会議の運営方法等についてでございます。

○田村町長

ありがとうございました。ただいま事務局から説明のございました、この会議の運営方法等の案につきまして、皆様からご意見を伺いたいと思いますがいかがでしょうか。

特に、ご意見がございませんので、案につきまして、ご承認ということでよろしいでしょうか。

○久保田委員

吉田町教育推進委員会のことについてですが、より現場に近い方をとという話がありましたが、本当に学校教育にしても社会教育にしても、現場の状況がどうなっているのかとか、意見はどうだろうかとか、いろいろ各家庭によってスタイルがありますし、意識もいろいろ多様化しておりますので、そういった方が意見を聞けるというわけですね。町長さんが聞いて、それをこちらの方に提示するということでしょうか。

○事務局

その通りでございます。

○田村町長

他にございませんか。よろしいでしょうか。他にないようですので、案について御承認ということでよろしいでしょうか。

(委員全員の賛意あり。)

○田村町長

ありがとうございます。会議の運営方法につきまして、異議なしということで御承認をいただきました。

(3) 平成 27 年度の協議事項について

ア 教育の大綱に係る協議

○田村町長

次に、(3)の平成 27 年度の協議事項についてでございます。アの教育の大綱に係る協議について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

事務局でございます。次に平成 27 年度の協議事項について、事務局からご説明申し上げます。お手元の資料 9 ページを御覧いただきたいと思います。

本年度は、教育の大綱に係る協議をお願いしたいと思っております。まず、大綱の定義でございますが、地方公共団体の教育・学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものと定義してございます。また法律では、大綱の策定を地方公共団体の長の責務としている訳でございますが、策定にあたりましては国の教育振興基本計画を参酌し、地域の実情に応じて定めるというように規定してございます。参考資料 2 を御覧いただきたいと思います。これが国の教育振興基本計画のパンフレット・概要でございます。参酌すべき点といたしましては成果目標の部分の部分を指しているようでございます。また、地域の実情に応じて定めることとなりますが、地方公共団体において教育振興基本計画を定めている場合には、その計画をもって大綱に代えることも出来るようでございますが、当町には教育振興基本計画がない状況でございますので、現段階では第 4 次吉田町総合計画を参考にしていくこととなります。

資料 9 ページをご覧いただきますとおり、現在町の教育施策の基本としてございますのは、この第 4 次吉田町総合計画の施策の大綱でございます。教育・文化・交流においては四つの方向性を柱立てし、心豊かな人を育むまちづくりに向けさまざまな施策を展開しているところでございます。参考資料 3 は、後期基本計画、教育・文化・交流の部分を抜粋しましたので、ご参考いただきたいと思います。

縷々御説明申し上げましたが、つまり教育の大綱は国の教育振興基本計画であったり、町の総合計画であったり、このようなものを作っていくというイメージを持っていただければ結構ではないかと思っております。本日の協議は、今後地域の実情に応じて大綱を策定していくにあたりまして、ただいま提示した資料を参考にして、各委員が捉える教育の課題を意見交換していただき、共通認識を図っていただきたいように考えてございます。

最後に、レジュメ、資料 10 ページを御覧いただきたいと思います。平成 27 年度の年間スケジュール案をご説明いたします。総合教育会議の開催は、本日を含め年 5 回開催し、推進委員会は年 4 回の開催を予定してございます。本年度の協議は、教育の大綱の策定が中心となりますので、総合教育会議もこれに応じたスケジュールを組んでございます。大綱は 8 月に骨子を固め、年末には公表が出来るよう進めていきたいと考えてお

ります。なお、翌年に開催する総合教育会議では、教育の大綱に基づく施策の展開方法やその他重点的に講ずるべき施策などについて引き続き協議し、より実践的な町の教育行政の推進を図ってまいりたいと考えております。以上が、平成 27 年度の協議事項についてでございます。

○田村町長

ありがとうございました。ただいま事務局から教育の大綱は、国の教育振興基本計画を参酌すること、地域の実情に応じて定めることであると説明がございました。また、教育の諸課題について共通認識を図っていただきたいということでしたので、皆さんからご意見をいただくにあたりましては、学校における教育の課題、家庭における教育の課題、地域・その他における教育の課題というように分けて意見交換してまいりたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

(委員全員の賛意あり。)

○田村町長

ありがとうございます。それでは、ここからは委員の皆様が考えている、あるいは感じておられる教育の課題について御発言願います。

まず学校における教育の課題についてよろしくお願ひしたいと思ひます。意見をお願ひします。

○藁科委員

学校の課題と言うか、家庭も含めてだと思ひますけれども、非常に今価値観の多様化ということで、いろいろな考え方が多様化していますので、学校での指導というのが非常に難しくなっているなというのを感じています。というのも、本来家庭で果たすべき役割というのが、学校で肩代わりしているものが大変多いということがあると思ひます。例えば、基本的な生活習慣にしても、本来なら家庭で身に付けなければいけないことが、学校の方でそれを指導してしまったりということもあると思ひます。あとは食事のマナーとかそういったことについてもそうだと思いますし、それから服装等についても考え方の多様化と言ひましたが、非常に多様化しているので、一律な指導というのはなかなか難しいし、いろいろ徹底していきにくいこともあると思ひます。やはり学校で肩代わりしているものが非常に多くて、非常に肥大化して、学校で抱え込んでいるものが多いということで肥大化しているということで、やはりもう少しスリムにして、先生方が授業に専念出来るという時間を確保しなければいけないのではないかと思ひます。

それともう一つは、学校でやはり大事な子どもたちの命を預かっているということで、やはり確かに学校では日課がありまして、昼休みとか休憩時間とか休息時間というのが位置付けられているわけですが、子どもたちが学校にいる間というのは、本当に学校の管理下ということで、子どもの大事な命を預かっているということで目を離せないし、何かあったらすぐ対応をして、学校が迅速な対応をしなければいけないということで、非常に気が休まらないということがあると思ひます。やはり事務の仕事のような割り切

れない部分というのがあるのではないかと、そんなことを考えていて、やはりそんなことも先生方が忙しいというのは、そんな部分もあるのではないかとということも感じます。

○田村町長

今本来は家庭でやるべきことが学校の中でやることになってしまって、それが先生の守備範囲が非常に大きくなっていると。更には、学校は子どもたちを預かっているわけですので、その命についての感覚というものが非常に厳しく求められている。そういうところから先生も非常に忙しく、また気遣いをするというご意見がございました。他にございませんか。

○久保田委員

まず教育委員として、小中学校の学校訪問をしたり、それから学校行事に行ったり、地域公開日の授業参観に行ったりすると、本当に子どもたちの明るく元気な姿や、集中して授業に取り組んでいる姿や、友達と力を合わせて活動している様子を見ることができます。それから毎年見ていくと、子どもたちがやっぱり発達段階に応じて本当に成長している姿を目の当たりにするんですね。そうするとね、この吉田町の大綱のところにもありましたが、次代を担う人づくりって言うんでしょうか、子どもたちが次代を担っていく大事な宝と町長はおっしゃいますが、本当に大事な子どもたちだなという思いを強くします。

それで、薫科委員からも出ましたが、社会が多様化して、保護者とか家庭も学校もそうですが、いろいろな価値観を持った方がいらっしゃるし、子どもたちもいますので、それぞれの子どもたちに対応するということが一律には行かない。それぞれに合った対応というのが求められていると思うのですが、そこら辺が課題とか難しい部分があるなと思います。やっぱりこういう大きな変化の中では、子どもたちは一人ひとりがね、自分で考え、自分で行動すると言うか、そういう力を付けてもらいたいなと思いますし、他人を思いやる気持ちや、感動する豊かな人間性を持ってほしいなと思います。それからやっぱりたくましく生きるための体力や健康などの「生きる力」ですね。

今、国のものを見せていただいたら、「社会を生き抜く力」というふうに書いてありましたけど、やっぱり生きる力というのを備えて育ててほしいなと思います。でもそれは学校だけではなくて、家庭や地域や保護者、そういうものが一丸となって子どもたちを育むことが大切になってくるんだなということを常々思っております。

今、確かな学力ということで、吉田町ではラーニングプラン事業を始めているわけです。薫科委員から役割というお話があったんですけど、学校の役割だとか家庭の役割だとか、それから地域の役割だとか、保育園・幼稚園だとかね。やっぱりその役割の中で何が出来るかということをね、考えていくことが大事だなと思います。今、学校では授業改善とか、各学校で目指している研修を先生方が一生懸命やっけていらっしゃるし、習熟度別授業を実施したり、それから家庭学習の手引きを活用してね、家庭学習を定着させるような計画もあるわけです。やっぱり何て言うんですかね。学校だけではなくて、そ

それぞれの家庭も、より良い方向を目指して、みんなで育てるっていう意識がね、これからは大事になってくるのではないかということを感じております。

○田村町長

藁科委員からのご意見と重なる部分が結構ありますね。要は私もある程度学校の役割とか家庭の役割とか、ある程度単純化されていたと想像していたんですけどね。しかしこれは渾然一体となって家庭というものが教育で担う部分というのが学校に肩代わりしてもらおうような、それは家庭が変わってきたんでしょうけどね。そういう部分と。それから子どもに掛ける期待というのが、当然子どもは明日を担うわけですけど、その子どもが少なくなってくるわけですから、少なくともその子どもに対して期待が大きくなると。それからまた更には、社会の価値観が昔と違って単純なものから多様なものに変わっていますから、非常に子どもも学校教育の場で非常に難しいと。子どもも難しいという面があるのではないかと思います。非常に難しい貴重なご意見でした。他に何かございますか。

○塚本委員長

今久保田委員、藁科委員がおっしゃったこと、町長に話していただいたことに重複する部分が多いのですが、生き抜く力というのが出たのですが、実は子どもたちに求めているながらも、実際に私たち社会を生きていて一番必要とされていて、そういう力が自分自身振り返ってなくなっている、少ないのではないかと思います。非常に難しい力を付けなければならないという、現場ではそういうことも教えていかなければならないということが求められている。ただ、社会に求められているという意味では、具体的な対応を、親も子どもたちも先生たちも共有出来るところではないかと感じているところです。

そしてラーニングプランの話が出たのですが、学力向上委員会が3年見てきているのですが、非常に多大な支援をいただいているおかげで、補充学習が出来ているわけなのですが、子どもたちも非常に学力に対する意識というのは、ものすごく上がっているのではないかと感じます。それは保護者も学力を上げるために宿題がたくさん出ていたり、そういう補充学習をやってくれたりということに対して、大変だなと思う一方で非常にありがたいという意見が出ているように感じます。

一方、学校側はどうかというと、特にこれ授業改善ということが主体になってプランニングが行われているわけですが、先生たちも非常にそれに対して積極的に関わってくれて、学校自体が変わっているなというのを、さっき久保田委員がおっしゃったように、学校に行くと感じることが多々あります。ただ、私は着任式の時にも書かせてもらったのですが、非常にラーニングプランが学力のみにですね、延長した形になることを危惧してしまして。まあ学力というのは、当然先ほど指摘があったように、基本的な生活が出来て、その上に積み重ねていくものだと思いますので、テストの点数が増えるためだけの例えばドリルですとか、そういった内容の授業に陥ってしまうと、どうしても

バランスが狂ってくると思っていまして。本来先ほど言ったような生き抜く力というのはそれだけでは付いていかないと思っっているので、現場の先生まで話が行くと、なかなかやっぱりそこまで理解されていないのではないかというふうに思うケースもあるものですから、ラーニングプランが求めている本来の趣旨であったり、ほんとにつけたい力を授業改善や学校生活の中でどう付けていくかといったところをですね、教える側の現場にも浸透させていくことはまだ数年掛かるというふうに感じていますので、やり続けていくことが重要だと思っています。

それと、それで安定してきたなというのが一つのゴールではなくて、当然最低限と言うか、当然付けるべき力を付けるための教育環境整備の一つになるものですから、実はその上にもっと吉田町として子どもたちをこう育てたいという教育の姿であったり、付けたい力であったりというのがあると思うので、ぜひこの総合教育会議を通じて大綱が出来、その協議の中で吉田町のこういうところまで引き上げたい。こういう姿の子どもたちの投資という夢でもいいものですから、そういう姿をぜひ、もっと高みを目指して目標設定をされて、吉田町が充実していくかなと感じているところです。

○田村町長

ありがとうございます。結構厳しい意見ですよ。やはり社会で生き抜く力とラーニングプランの関係で。また大綱というものが子どもたちを高める。もう少し教育の高みを目指すものであってもらいたいという意見です。教育長、何かありますか。

○浅井教育長

今、委員の皆さんからも非常にありがたい意見だなと思えますけれども。社会が家庭を例に挙げながら多様化してきているだとか、その一方で先生方の多忙化みたいな問題が出ているわけですが。やはりここは大綱の作成もそうなのですが、少し考えながら、社会が変化しているからそれに対応していくような教育を吉田町で出来たらいいんじゃないかなと思っています。そういう社会の変化に対応していくことで、先ほどから言っている家庭や地域の一体。またその家庭や地域で担う部分も新しく見えてくるのではないかなという感想を持ちました。

その行き着く先に、先生方が授業に専念出来る環境づくりと併せて達成していくと、充実した教育が展開出来るのではないかという感想を持ちました。

○久保田委員

今に関連するんですけどね。1年間の吉田町のラーニングプラン事業に取り組んだわけですが、先ほどから教師の多忙化というお話があったですけども、教育現場でどうだったかという声もぜひ聞いていただきたい。それから保護者の方も家庭学習の手引きの活用とかありますけれどもね。子どもも違いますし、家庭も違うので、どのように活用すればいいか分からないとか、どういうふうにすれば効果的なのかとか、いろいろな悩みとか実態が保護者の方は分かると思うのでね、吉田町教育推進委員会で、教育現場の声や保護者の声を聞いていただきたいと思います。先生方もやっぱり、教師が授業

に専念出来る環境ということが、子ども一人ひとりに付く時間の確保にもなるし、豊かな人間性とかそういった部分にもつながっていきますのでね。ぜひそこら辺は聞いてほしいと思います。

○田村町長

私も常々ですね、教育長と話をしているのですが、先生が日々学校でどんな時間を過ごしているのか。先生が忙しいのはよく分かっているのですが、忙しさがいわゆる教育本来の事業とは関係のない部分が結構入っていると思うんですよね。先ほど申し上げた家庭の問題があるわけですから。すると、先生が授業に専念出来る体制を整えるためには、先生の日々の行動がよく分からないと行政はカバーしていく部分とかですね、分からないものですから、それらについても総合教育会議の場でですね、現場の先生方の意見もですね、聞いていきたいとこんなふうに思っています。他にございますか。よろしいでしょうか。分かりました。それでは学校における教育の課題については、これで終わります。

次に家庭における教育の課題についてご発言願います。これはかなりあると思いますがどうぞよろしくをお願いします。

○塚本委員長

先ほどと関連してくる話は当然出てくるのですが、家庭における課題というのは、やはりしつけに関して、最低限が出来ていないのではないかというのを私自身出来ていないものですから、反省するところであります。学校にお任せしていて申し訳ないこともあるのですが。ただ、それを改善していくというのは、町の中でも私、住民歯科会議という歯の会議に出させていただくのですが、子どもたちの歯を守っていくと。80歳で20本の歯を守ろうという会議になるのですが、そこでの会議でどうしても子どもたちの歯を守るために親が何をしなければならないかということが、出来ている親と出来ていない親がすごくいて、どちらかというとなかなか虫歯の率は結構良くない方になるのですが。そういった最低限の子どもの体の部分ということはですね、まだ意識として広めていくことが非常に難しいというのを感じています。

で、その時に話をさせてもらったのは、例えば教育も同じで、保護者に伝える伝え方や、伝えることというのは、非常に精査されて分かりやすくですとか、的確にとかですね。この時期にどういふことを伝えなきゃならない、最低限のことを的確に伝えるといったことが歯のこともそうですし、健康のこともそうですし、学校の教育のこともそうですと非常に感じます。そういったものを整理していくことで、一つひとつ分かりやすく伝えていくと。どうしても私たちは伝える側に立っていることが多いものですから、言いつ放しとか、こういうふうに伝えようというので終わっちゃうことが多いのですが、企業なんか特にそうなのですが、お客さんが社会が何を求めているかというのを感じて、その求めていることに対してこう伝えて、更にそれが伝わったかどうか。そしてそれが公開したかどうかというところ。それで満足したかという、さまざまなプロセスや目標

があって、最終的にはお客様が満足して幸せになったかということまでちゃんと見届けないと成り立たない世界なものですから、学校教育の場でも子どもたちが、僕は保護者ですね、こういうふうに伝えられたけど、それは出来ているのか出来ていないのか。出来るように伝えるにはどうしたらいいのか。そして、最終的に出来て、子どもたちが幸せになったかどうかということまでですね、見通した中で物事を伝えていくということが、非常に難しいことだとは思いますが、そういったことの積み重ねが必要だと感じるようです。

○藁科委員

今親を変えるのは難しいとおっしゃいましたが、確かにその通りだと思います。よくね、親が変われば子が変わる。子どもが変われば親が変わるって言うけれども、やっぱりなかなか親を変えることは大変なものですから、一つの手段として、やはり子どもの成長した姿。子どもの変わってきた姿を見れば、親が学校でこんないいことをやってくれる。幼稚園ではこんなことをやってくれているということで親が気付くという部分があるということですね、うちの孫がお世話になっている幼稚園で、時々園長先生がお便りをくださるのですが、それが本当に子育てに参考になる、親がハッとするようなことがさりげなく書いてくださっているのですが、そういうものを通して親が、あ、そうだったんだ。子どもに声を掛ける時はこんな声掛けをすればいいんだとかね。あるいは、親がこんなふうになれば、じゃあ子どもっていい子に育っていかないのだみたいな、そんなものに気付いていくと言うか、そんなことをしてくださって大変ありがたいなと思っているわけですが、そんなことがあると思います。

やはり家庭というのが非常に親の意識というのが二極化している。非常に熱心で教育に対するご関心が強くて、家庭での学習時間とかそういったことについても気を配って、テレビを観る時間とかスマホとか、そういったことに対しても親と子どもと約束を決めてちゃんとやってくれている親と、その反対に本当に子どもを放任って言ったら申し訳ないのですが、そういう二極化ということが非常に多いということなものですから、そういう一番やっぱりPTAの活動にしても何の活動にしてもそうですけれども、そういう熱心な親御さんは、もう黙っていてもいろんなことが分かってくれているんだけど、そうではないご家庭の方にこちらを向いていただくためにどうしたらいいかということを考えていくことが大事かなと。やはりこちらを味方にしていくとか、そういったことが大事だなということで、お便りにしても子どもがすごく成長したちょっとしたことを、今日誰々さんはこんなことを頑張ったよとかって、そんなようなことを知らせてあげるだけでも親は気付いてくるっていう。小さなそういう積み重ねが大事だなっていう気がしています。

○浅井教育長

家庭の先ほどは価値観ということが出ましたが、家庭の状況と言うかですね、そういったものがやっぱり大きく変化しているということも、我々は教育を進めていく上で

ちんと押さえなければならぬ視点ではないかなと。先ほどそれを大きな言葉でくくると、社会の変化というところに行くのかもしれませんが、家庭の状況の変化に合わせた教育をやっていく。そのまさに二極化をどう埋めていくのかという、そういったところに課題があるのかなと感じています。

○田村町長

確かに昔は、夫は外で働く。妻は家事をと。そういう役割分担が社会の固定的な観念としてみんなそれを受け入れていましたよね。1980年代から女性が社会進出を始めるわけですが、その時点で奥さんが家庭にいなくなってしまうんですね。そういう意味での決定的な違いというのが生まれてきたんですね。そういう中でおそらく、家庭における教育というのは難しいものになってきたのでしょうか。それが学校でやってよという感じになってきているのだと思うのですが。それについて何かございますか。

○久保田委員

薫科委員から二極化という話がありましたけれどもね。私もそのことを感じます。家庭で子どもとよく関わって、会話をしたり、ふれあいが多い家庭と、お忙しいこともあるでしょうが、子どもとのふれあいが少ない、あるいは基本的な生活習慣と言うか、そういうしつけが出来ないというような二極化というものが見られると思います。やっぱり家庭は子どもたちの居場所ですので、子どもとよく接して、親と子のコミュニケーションがとれるような家庭を築いていってほしいという願いがあります。学校からは子どもさんの良さを見つけて、家庭に知らせることも大切だと思います。家庭では子育てに対していろいろな悩みがあり、どう対応していいか分からない等の理由でなかなか見れないという方もいらっしゃると思うんですね。

だから、やはり子育ての相談体制をしっかりと、フォローする部分があればそういった方も子供に目を向ける時間や、機会が増えてくるんじゃないかと感じています。相談体制の充実も大事だなと感じております。

○田村町長

今の家庭における教育の問題でも、結構女性の側面が非常に大きくなっているように思うのですが。男性というのはどうなのでしょう。家庭における教育問題で、男性というのは。いかがでしょうか。

○塚本委員長

私、高校生と中学生と小学生といるのですが、私は自営業なものですから、ほとんど家にいることが多いので、先ほど言っていたふれあいとかそういったものはしやすい環境にあるものですから。まあすごくそれって大切だと思っていて。特に私がですね、難しいことを言ったりしていないのですが、ふれあいの中で生き抜く力をですね、少しずつ身に付けることが出来ているのかなと。それと私自身も、さっき生き抜く力がないというお話をしましたが、親自身も子どもと一緒に生活していく中で成長していく。どうしても親だから子どもに教えるという感覚になりがちですが、私は子どもから教わ

ることがものすごく多くて、子どもと一緒に成長していけたらいいなと思いながらいます。

先ほど町長から、いろいろなご家庭を回られて話を直接伺ったということですから、逆に町長の方が吉田町のご家庭の事情等が中で感じていらっしゃるだろうと思うところなのですが。共働きの家庭は確かに多くなっていて、その分学童保育ですとか、放課後児童館、児童クラブの方をお願いしたいという希望がものすごく増えているという現状があるものですから、それを家に帰すわけには当然いかないで、そこでももちろん当然親とふれあうことは大切ですが、それに近いサービスが提供出来る環境を整えていくということは非常に大切だと思いますし、その支援をお願いしたいなと思います。

それは他の部局と連携していくことがすごくたくさんあると思います。家庭の問題とか見ると、特に虐待の問題とかというと、当然福祉課ですとか他の部署と連携しながらでないに対応出来ないことがたくさんあるものですから、この総合教育会議で町長にそういう問題も一緒に感じてもらって、他の部局との連携を強めて、首長として支えるということを充実させていかなければならないと期待します。

○田村町長

確かに総合教育会議の中で、福祉の問題も当然一つの課題になっていますのでね。当然それもこれから参考人呼んでいろいろ意見を述べてもらおうと思っています。一つですね、教育長は確か奥さん共々先生ですよ。男性として子どもの教育。家庭の面からどんなふうに参加してきましたか。

○浅井教育長

大変難しい質問で、少し混乱をしております。今町長から話がありましたが、典型的な共働きです。いわゆる年寄りと言うか、母がおるものですから、そういったところに子育てを依存してきたと言うか、そういった時代に子育てをした世代です。ですので、見届けたり、例えば子どもが早く帰ってくる日にはおにぎりを作っておいたのでおばあちゃん、食べさせてねという形で進んできましたけれども、さっき言ったように状況が変化しているわけで、今は違うと思うんですね。だから、そういうところに応えていけるような教育。もちろん今まで通りの部分もあるし、そういったところにもお応えが出来るような教育はしていかなければならないと思っています。

○久保田委員

私ね、入学式や卒業式に参加して思うことなのですが、本当にこの頃お父さん方の出席が多いです。ご夫婦揃ってお見えになる方が多いです。私たちの頃はほとんどお母さん方で、お父さんたちは来ないということでしたけれども。本当に今は、小学校でも中学校でもご夫婦揃って、あるいは父親の参加というのがすごい目立ってきたなと感じております。

○田村町長

私は反対に、自分の子どもの入学式も卒業式も一度も行ったことがないし、授業参観

もしたことがない。典型的な昔の男性なんですよね。そういうところを言われると非常につらいなと思います。久保田委員がおっしゃったように、男性も入学式や卒業式、授業参観に行きますよね。そういう意味では、男性もかなりそういうことに関心を持つように。これは奥さんから言われるのでしろうし、本人もやっぱり社会的にそうなっていくのでしろうね。いかがですか。

○塚本委員長

おっしゃる通りで、私も大体行くのですが、非常にお父さんがたくさん見えています。ただ、社会の問題や家庭の問題等増えているというので、その矛盾した感じがするのですが。先ほど少子化で1人の子どもに対する期待が大きくなっているという話がありましたが、私この間聞いた講演会でも、例えば韓国ですとか中国ですとか、日本とは比較にならないぐらい1人の子どもに対してのかなりの、それ以外のことも集中して掛けるという状況が生まれていますので、日本もそれに近付くような形になっているという現状があると思うんですね。そういう意味で、子どもを何とかちゃんと育てたいという思いは、お父さんも一緒だと。

それから、家庭の話だと、家庭だどうしてもお母さんがですね、例えば機嫌がいいとか、お母さんが安定しているという言い方は表現としてどうか分からないのですが、いきいきしているとか充実しているということが、家庭というのは一番基盤になることだと私は思っています。大体お母さんの機嫌が悪いとですね、お父さんも難しくなっていますね。子どもに対しても難しい状況になる。そういう意味では、お母さんを充実させた元気な姿にするというのは、この家庭環境を、教育の話とはちょっとずれるかも分からないですけど、まあお母さんが元気で充実した状況、環境を作るというのは、その家庭を変える大きなテーマのような気が最近しています。

子どもに掛けるお金の話ですが、塾に子どもたちを行かせているところがものすごく今多いです。そうすると、塾に行かせて、そうすると帰るのが遅いから、食生活もちょっと乱れたり、親と一緒に食べないとか、昔持っていた家族で食べてという生活環境とちょっとずれている環境が現実の環境だと思います。そうすると塾に行ける子と行かせられない子、行かない子の学力格差ですとか、生活リズムの違いの体の体調とか精神的な面の格差とか、そういうのも非常に大きな課題だと思うので。その辺をこう学校なのか、地域なのか面倒を見る何かがあればというのは感じます。

というのは、私立高校に行かせたいという親は、私立高校に行くと面倒を見てくれるという意見があるんですね。公立の中学・高校だと、自分でやらなければならないので塾に行かせても学力の保障もないので、自分で稼いで勉強させなきゃならない。私立高校に行くと、私立の先生は10時ぐらいまで。塾に行っているのと同じように面倒を見てくれると。で、金額は全部その中に入っていますよという意見も聞くことができます。そういったものもアンテナを張りながら、親の教育ではあるべき何かというのを考えることが必要かなと感じています。

○田村町長

家庭における教育の課題ですが、この辺で終わって次のステップ、地域・その他における教育の課題に移りたいと思います。何かご意見ございますか。教育長、口火を切ってください。

○浅井教育長

地域における教育の課題ということで、先ほどから出ている学校・家庭とは違って、昔は地域において、言わなくてもみんなが近所の子を含めた意識の中でやっているわけですけれども。それをやはり社会が変化してきているので、やっぱりそういうところも見抜いて、地域の教育力を高めていくようなことが課題だと思います。うちの社会教育部門とでも、そういった地域教育推進ということでやりながら、地域の子どもは地域で育てるという意識を皆様のところを広げていくということがあります。やっぱりそういうことも継続していきながら、先ほど出ている学校・家庭・地域の渦を作っていくって、そういう意味でも一つの大きな役割を果たしていくのが地域の教育だなと思っています。

○藁科委員

子どもは大人を映す鏡。子どもは大人の姿を映す鏡だという言葉と、それから大人が子どもの鑑。鑑というのは、見本・手本という意味の鑑。お手本にならなければいけないという言葉があると思うんですけどね。ドロシー・ロー・ノルトさんでしたっけ。あの人が優しい環境の中で育ったことが優しい子になるとかね。ギスギスした中で育つとそういう子どもになるということていくつか、20項目ぐらいを並べたそういうのがあるのだけれども、まさにその通りだと思うのですけれども。地域の大人が大人の姿で子どもを育てていると言うか、そういうことをするものじゃないとか、こういうことをするとみんなが喜ぶよとか、そういうのがあったと思うんですけどね。それが今なかなかないんじゃないかなって。確かに吉田町の人たち、本当に子どものことをよく見てくださっているし、何かいろいろなことに協力してくださってそれはすごくいいんですけどね。すべてがそうではなくて、やっぱり本当に私なんか田んぼを作っているんですが、道の下にお弁当のからがっぱい落ちていたり、空き缶がっぱい落ちていたりね、川にごみがっぱい流れていたりって、そういうことがあるっていうのは、そういう姿を子どもが見るということはやっぱりまずいなって。やっぱり自分たちの住む環境は自分たちで良くしていこう、そういうものでなくてはいけないなということを感じるんですけど。そういうことがやはり出来ていないなというのをすごく感じます。

そんなことであとはちょっとね、話が違うんですけど。この頃の子どもってどうかなって考えた時にね、吉田の子どもって素直な子どもが多いなって、それはいいことだなと思います。それで与えられたことというのは、大部分の子どもがまじめに一生懸命頑張るだけだけれども、一部で自分で正しいことを判断して決めるということがやや弱いのかなってそんな感じがします。というのは、正しくという意味が、目標を持って

だからこうしたんだよとかね。あるいは、先を見通してこうしておけばこうなるからっていう、そういう根拠を持った判断のしかたというのがね、ちょっと弱いのかなということ。それから、自分を表現っていうのはね、やはり自己肯定感とかね、言葉がありますけれども、自分への自信とかそういうものが少し欠けているのかなって言うか。もう少し自分で自分の心みたいなもの、自分の気持ちみたいなものに自信を持って出せるといいなっていうのを感じています。それはやはり、子どもの責任じゃなくて、やっぱり親と言うか大人の責任かなっていうのを感じていて。やっぱり子どもに自信を付けさせてあげるような言葉掛け。いいことをしている子どもを見たら、それを褒めてあげたりとかね。あ、そういうことをするとみんなが喜んでくれるねとかね。誰々ちゃんはずごくあいさつがよく出来て気持ちがいいよとかってね、何かそういうことをしていけるとすごくいいなって。私は地域の一お婆さんとしてね、朝の登校の時なんか子どもたちに声を掛けたり、教育委員になってみたりということはあるんだけど、そういうことって大事かなって思います。

○田村町長

確かに昔は、地域の大人が子どもに対してそれはやっちゃいけないよとか、注意したりしましたよね。今はほとんど見ても声を掛けないですね。何で変わってしまったんですかね。それは別にして何かございますか。

○塚本委員長

今、町長さんが地域の子どもたちが何かコンビニの前でたむろして、夜遅くにしたら彼らに声を掛けることが出来るかどうかと言われると、なかなか出来ないなと思うと、今の私たちの親の世代の皆さんがやってきたことを、私たち世代は出来ていないなと反省するところなのですが。吉田町では片岡きらめき塾ですとか、社会教育を中心にやっていらっしゃる事業がものすごく盛況に出来ていると思いますし。児童発表ですね。整理もちゃんと出来ているものですから、子どもたちがそこでいきいきと遊んでいる姿というのを目にすることが出来ます。そしてこれから大量に会社を退職されるシニアの方が増えてくる中で、子どもたちとふれあいたいと思っている方がたくさんいると思っています。ただ、それを引っ張っていくリーダーや、仕組みがないなっていうのがすごく難しいところであるけれども、そういうのがあればもっとそういう人たちと子どもたちがふれあう機会が増えて、その中で自然と知り合いが多ければ、住吉なんかはお祭りがあるものですから、ものすごくこう世代を超えた交流が密にされているものですから。特に住吉の子どもたちに対しては、住吉の大人も、おじいさん・おばあさんも声掛けが出来ているような環境があると思うんですね。

どうしても片岡ですとか北区の方よりも、住吉の方がそういうのが充実していると思うので、その中でそれを見習っていかなければいけないなという事業とかイベントや交流する機会を増やしていくことが、地域の結び付きを強くすることになるのかなとは感じています。

○久保田委員

今委員長が話された自治会ごとに片岡・川尻・住吉・北区ごとに地域推進協議会があり、地域の方が主体になって子どもの通学合宿だとか、いろいろな活動をして活発にやってくださっています。地域の子どもは地域で育てるというそういう意識は本当にありがたいし続けてもらいたいし、それが子どもの力になっていくのかなと思います。それから、社会教育のことで、学習支援ボランティアって言うんですかね。学校応援団でしたっけ。学校に地域の方を活用して、子どもたちといろいろな活動していただくというような事業が始まったと思います。これは新聞にも、住吉小学校が下校を見守ってくださったとか、あるいは中央小では去年家庭科の学習の中で、ミシンの使い方だとか、調理のやり方を教えてくれたとか。自彊小では花壇の手入れをやってくれたり、そういった地域の方が学校の依頼を受けて、やってくさるという活動がスタートしていると思うのですが、やっぱりそれってすごく子どもたちにとっても、学校にとっても、地域の方にとっても、プラスになることじゃないかなと思うんですね。

ただ、そういった多種多様な人材って言うんですかね。そういう方をどういうふうにして探すとかね。それをコーディネートする方がやっぱり必要になってくると思うんですね。ですから、地域のそういったいろいろな技能や経験を持っていらっしゃる方に、学校教育への参加をしていただいて、ますます学校応援団を推進していただきたいと思っています。

○田村町長

今年の4月1日に高齢者人材活用センターが出来ましたよね。あそこに人材バンクというのがあるんですが、そこに私はこういうふうな特技であるとか、こういうことが出来るよということ登録すると、それを必要とする人が、あ、そういうものが欲しいんだよと申し込むとドッキングさせるのですが、そういうのも一つまた形態になっていくかもしれませんね。結局たくさん人がいるんだけど、なかなか手を上げてというのがないんですね。その辺が難しいところかもしれませんね。どうですか。

○浅井教育長

このセクションが地域・その他を含めての教育課題というところなので、地域というところをキーワードに、地域の特色と言うか、強みみたいなものを今考えていたわけですが。学校教育に関わってくるかもしれませんが、やっぱり1中学校、3小学校というそういう地域の強みを生かしていくというような、そういったところでもまた連携を図ったりしていくことが必要ではないかなと感じています。

あともう少し長いスパンで考えていくと、生涯学習も含めた生まれた時からずっと教育を受けているというような流れ、あるいは子育てとか、そういったものを考えた時に、保育園だとか幼稚園・小学校・中学校といった一連の流れでね、教育を考えていくこともこの機会に必要ではないかなと。それがまた地域の強みにもなっていくのではないかなということを感じますが他の委員の皆さんはいかがでしょうか。

○藁科委員

幼稚園の子どもがね、あるいは保育園の子どもが小学校1年生に上がった時に、やっぱり自分の出来ない姿、何と言うか不適應現象を起こして学校が嫌になったりということがあって。今度また小学校から中学に行く時に、またちょっと中学の生活に対応出来ないという。小1プロブレム、それから中1ギャップという問題があると思うのですけれどもね。そういう形で幼稚園・小学校・中学校の一貫した教育と言ったらいいのか、そのつながりを大事にした教育というのが、非常にこれから大事かなというのを思いますね。小学校の先生が中学と交流したり、逆に中学の先生が小学校とかっていうのもあるし。それから幼稚園、あるいは保育園の先生が小学校の授業を見に来たりとか、そういう交流というのをすることは非常に大事だし、意義のあることだと思うし。確かに要録とかそういったものを送っていますけどね。子どもの記録を書いたものを幼稚園から小学校に送るし、小学校から中学校の方にそういったものが送られていくんだけれども、そうではなくて生の子どもたちの姿というのを見るということは非常に意義あることではないかなということで、そういったことも非常に大事かなと思います。

○田村町長

教育長、確か保育士さんと小学校の低学年の先生と、そういう交流が具体的にあるのでしょうか。

○浅井教育長

就学前の教育が大切だということだとか、今まで出てきた家庭の面からとか、社会の面からってそういうことに対応して、昨年度の2月ですかね。社会福祉課と連携してですね、保育園の先生と小学校の1年生の担任の先生と少し話し合いを持ちました。それぞれがどんなことを望んでいるのか。あるいはどういったことをやってきてくれればいいのかという、そういうものを話し合う中でも、やっぱりそれぞれの苦勞している部分。あるいはそれぞれが不足していた部分。そういうことが少し明らかになってきたのではないかなと思います。そういったことを繰り返して、それが保育園・小学校に止まらず、小学校・中学とか、そういうところにも結構発展して行って、充実した一連の流れの中で教育が出来ていければと思うし、そういったこともまた大綱の中に盛り込んで行ってはいいのではないかと考えています。

○田村町長

そういう場をやっぱり作っていくという、こういう意見交換なんかが行われて、相互訪問するとか、そういうのは場をやっぱり作っていかないとまずいかもしれませんね。

○藁科委員

非常にそういうことは大事なことだし、私も提言したいなと思っていますけれども。小学校の生活科という教科があるんですね。二十数年前に誕生しましてね。そして以前は1年生も2年生も、私が子どもの時に理科・社会を1年生でも2年生でも習っていたんだけれども、やはり小学校1年生の発達段階の時に、理科とか社会と違って分けて考

えることが出来ないということで、生活科という教科が誕生したというのも、やはり幼稚園とのつながりを大事にするということで生まれたわけです。今その部分を私、学生たちに話をしたり授業をやっているんですけども、そのところで非常につなぎの部分というかね。幼稚園から小学校、あるいは保育園から小学校。小学校から中学という、そこってすごく大事なものだから、今教育長がおっしゃったようなこともこれからやっていかなければいけないことだなと思う反面ね、ただ先ほどもいろんなことがね、あれも大事、これも大事って取り入れてしまうとね、学校をスリム化したいと言っているながら、先生方が出張が非常に多くなってしまったりね。調査して出すものって言うか、提出物が非常に多くなって、それも忙しさの一つになると思うんですよね。非常に大変と言うかね、すぐ調査をして出さないよと言うと、じゃあすぐ調査するにはいつするかというと、1時間目にくいこんでしまったり、実際問題小学校は45分、中学は50分だけれども、その時間にやらなければいけないことが出てきちゃうっていう、そういう現状というのはやっぱりいつでもね、いろいろなことをお願いしたり収集したりという時にね、私はそこは頭に入れなきゃいけないことかなって思います。

確かに大事なことはたくさんあるんだけど、そういったことで余計に多忙化ということにならないかなと自信がないものですから。どれを切ってどれを吸い上げていくかという部分というのは、取捨選択というのが非常に大事だなとそんなふうに感想として持ちます。

○田村町長

基本的な問題は、要は学校における先生の日常とか、それから家庭における父親と母親の日常とか、地域における大人たちの日常というのも我々あまり分かっていないんですよ。そういう部分が分からないと次に行けない部分があるものですから、本当はそういうことをまず明らかにすることが必要かもしれませんね。他に何かありますか。

○塚本委員長

生活科の今お話が出たのですが、今回のテスト、全国学習状況調査、理科テストが行われたので、その結果がどういうものになるか分からないのですが、理科嫌いとか理科離れということが言われて、その原因の一つにやっぱり子どもの時期の自然体験が少なくなっているということがあるのではないかと言われていると思うんですね。まあ先ほど学校でやってもらっているっていうのはあったのですが、おそらく私が子どもの頃、教育長や町長が子どもの頃は自然にあふれて育ってきたと思うんですね、まさに。だんだんそれが私たちの時代でも少なくなっていくって、今子どもたちはほとんどそういうことが学校の通学路でもなかなかそういうところを避けて、安全なところを通わせるという傾向があるものですから。例えばカエルを触ったことがないとか、カナヘビを見たことがないとか、この草が何か、キノコが食べれるのか食べれないのかとかね。そういった自然体験が圧倒的に少ない。吉田町では小さな理科館が出来て、その理科の大切さというのがかなり前から言われて、理科好きな子はそこにいる、ものすごく成果を上げて

いると思うんですね。ただ、一般的な子どもたちすべてがどうかというと、理科離れという原因は、その自然体験が圧倒的に少ないということがあるんですね。そういった意味では、さっき話が出た社会教育でやっている活動というのが、年代の離れたシニアの方と小学生が自然を通じて体験し合っているというのはすごく貴重な体験であると思うので。そういう活動と、学校生活教育と、生活科教育とリンクしていくことでお互いを補佐し合って、学校の負担を少しでも減らして、そういった関心も深めながら、学校も何となくそういう環境になっていくということが連携の話では重要ではないかと思えます。

それとその他で一つなのですが、さっき吉田町の教育の高みを目指すという話をさせてもらったのですが、今アクティブラーニングとかですね、先ほどの生き抜く力につながっているようですが、国も新しい施策を考えていく中で出ている言葉の中にキャリア教育ですとか、ICTですとか、難しい横文字がたくさん書かれているのですが。外国語教育というのがですね、私高校生の子どもがいるのですが、まあ大学受験になるとですね、たちまち外国語の特に英語ですね。その重要性を身に染みて感じるようになりまして。吉田町と先ほどの教育の中で、総合計画会議かな。町の会議で総合計画の中で、海外都市との交流を進めるとかですね。国際都市との交流とかも入っているものから、ぜひ外国語教育というものをですね。町長はだいぶ堪能だと思うのですが、外国語の重要性を理解していらっしゃると思うので、その辺教育に、吉田町の中で生かしていくということもですね、まあ更に中身を増やしていく上ではいいんじゃないかと思っているものから、そのことも一つ提案させていただきたいと思えます。

○田村町長

他にありますか。

○久保田委員

先ほど保幼小の連携の話が出ましたが、小1プロブレムがあり、学校への適応がなかなかスムーズに行かないというようなこともありますので、やはり幼児教育と学校、1年生とのつながりが大事かなと思います。それと同時に、小学校6年生から中学1年生に行く時の中1ギャップ。それもやっぱりつながりが大事じゃないかなと思います。

で、今吉田町のラーニングプランの中で、町独自の学力調査というのをやっているわけですが、やっぱりあれも9年間の子どもたちの学びを継続的に見通して、実態把握や結果を分析して、手立てを打っていくというようなことや、子どもたちの学習や生活をより良くしていくための手立にもなっていると思うんですね。

だから、小学校で終わり、中学校でスタートではなくて、やはり9年間の子どもたちの変化っていうのを見て、子どもたちが自分で主体的に学んでいける姿というのが見られるようになればいいかなと感じています。

○田村町長

実は昨日ですね、今先生方が小1プロブレム、中1ギャップと、一貫教育でずっと流

れると、まだあるんだそうですね、小学校3年生、4年生のなんとかギャップというのが。で、話を聞きましたら、要は小学校に入ってくる子どもさんが、昔と違って非常にこの、なんていうんですか、世話焼けるものだから、ベテランの先生が1年生、2年生に投入するものだから、3年生、4年生のところはぽかっと空いてしまうと。そういう話がありまして、いやあ、いろいろなことが小学校に、1年生に入ってくる。小1プロブレムの問題が別なところでまた問題を起こしている。やっぱり考えようとする一貫教育の中でっていう、そういうふうな視点がどうしても出てきますよね。プロブレムと言うと、妊娠・出産から中学校3年生までとどーんと見ないと、本当に子育てと一言でまとめて考えないと、すべてがこうおかしくなってくる。またいつか、皆さんにもお話ししますけども、そんなことがありまして、「えっ」なんて思いましたけれども。

他に何かございますか。

○浅井教育長

いろいろ話し合いをしていただいた中に、今実際に取り組みさせていただいているラーニングプランからいろいろ問題が提起されたり、よさを認めていただいたり、私としてはありがたいなと思います。あるいはここで出た課題の中でのことを、どういうふうに首長とお話し合いながらより良いものを作っていくという、そこが私たちに課せられた大きな課題だろうし、この総合教育会議の良い点じゃないかなと、そんな感想を今日は第1回目で持ちました。

○田村町長

それではそろそろ締めたいと思います。ありがとうございました。今回皆さんからいただきました教育の諸課題については、今後開催します吉田町教育推進委員会からの意見聴取も踏まえ、整理してまいりたいと思います。次回以降は、課題に挙げた事柄につきまして、どのようなことをすれば解決出来るか。また意見を交わしていきたいと思っていますが、いかがでしょうか。

(委員全員の賛意あり。)

○田村町長

ありがとうございます。それでは、そのように進めていきたいと思います。今日は貴重な意見をいただきありがとうございました。

イ その他

○田村町長

続きまして、イのその他でございますが、私からは特に提案するものはございませんが、教育委員の皆様から何かございますか。よろしいでしょうか。

ないようでございますので、以上をもちまして本日の議事を終了いたします。委員の皆様のご協力ありがとうございました。

○事務局

委員の皆様、熱心な議論をありがとうございました。第2回の総合教育会議につつま

しては、7月中の開催を予定しております。後日事務局で日程調整をいたしまして、皆様にご連絡をいたします。

3 閉会

○事務局

以上をもちまして、平成 27 年度第 1 回吉田町総合教育会議を閉会します。閉会にあたりまして、相互のあいさつを交わしますので、ご起立ください。礼、ありがとうございました。